

なが

ほとけ さま

流されてきた仏様(三輪)

つたう話のあらすじ

三輪山真長寺は、およそ千年前の平安時代に建てられたお寺です。お寺の後ろには、三輪山があります。

今から470年ほど前の天文3年(1535)9月、この地に大雨が降り続きました。村人たちは心配して、武儀川を見に行き、大水が出たら三輪山へ逃げようと用意をしていました。

あくる朝早く、火の見やぐらの半鐘が鳴り、川を見に行った一人の村人が叫びます。「ああっ、大きな仏様が流れてござる。大変や。」川の水はどんどん増えてきます。村人は自分のことを考えて逃げようとしました。すると、村のばあさまが、「おおいみんな、いつも仏様にお参りしとるじゃろう。仏様が流れていかっせるのに、それでええのか。」 すると、一人の若い男が着物をぬいで、ふんどしひとつになって、川へ飛びこみました。それを見て…

*この大水の時には、「中屋切れ(中屋という場所で堤防が切れること)」が起こり、1万2千人の人が亡くなられ、2千頭の馬や牛が流されたということです。

<交通>岐阜バス高美線または加野団地線 「三輪釈迦」バス停下車すぐ



木造釈迦如来坐像 [国の重要文化財に指定されている] 高さ5mあまりのどっしりとした造り。山門横の保存庫に安置されています。



枯山水の石庭[岐阜市の名勝に 指定されている]毎年10月に観 月会(澄んだ音色を聴きながら、 名月を観賞する)が行われます。



こくりゅうみょうじん

黑龍明神(芥見)

つたえ話のあらすじ

昭和の初め、大蛇を見た人が変な亡くなり方をした。

ある時、「わしは龍神である。まつってもらいたくて大蛇の姿で現れたが、こわがらせて死なせてしまった。だれか、わしをまつってはくれないか。」という神様のお告げがあった。

村人は祠を建て、お経をあげておまいりをした。



黒龍明神の祠(芥見7丁日 高天 ケ原ニュータウン)



黒龍の彫刻

いけ

りゅう で

池にともった龍の火(梅林)





つたえ話のあらすじ

今から550年ほど前は、金華山の南は岩戸から西(現在の上加納の辺り)にかけて池のようになっていました。この地を治めていたのは、斉藤利永というおさむらいさんで、村人が幸せになるように、毎日のように観音さまに願っていました。

ある夜、利永は夢をみました。「わたしを岩戸の洞窟にまつってみんなでおまいりしなさい。村はもっと幸せになります。私の願いがとどいたときには、池にあかりをともしてみせます。」とお告げがありました。

利永は、お告げどおりに岩戸の大きなあなにお寺を建て、観音さまをまつりました。 やがて池には毎夜たくさんの灯がともりました。 火がたくさん並んでまるで龍のようでした。 その後、村の平安が続き、この池は「火見が池」と言われるようになりました・・・。

★岩あなの観音さまは「岩戸観音」と言われ、今も多くの人がお参りをしています。(岐阜市長森岩戸にあります。)★火見が池のあった場所は、現在は住宅地になっています。わずかに「旭見ヶ池」という地名がこの伝説に関わる場所として残っています。 (今の岐阜市上加納の辺り)